

## 七十の思い

常務理事 渡部 式郎

ご多聞にもれず我が家も核家族、二人にしては広すぎる家も、長年の自分達の垢と、去った三人の子供達の思い出の品々で満ちている。お互い好奇心が強いせい、それぞれの道楽と趣味に忙しく、老猫に留守番を頼むことが多い。そんな気候な年金暮しの中、最近の報道種の多さに驚く。

国外問題では、

- 昨年の米国の同じ多発テロ事件のその後。
- イスラエルとパレスチナの戦乱状態に、米英及び国連の対応は？
- 米国のエネルギー大手企業エンロンの破綻事件で、色々な問題が派生、中でも有力信用格付会社ムーディーズの不明さも見えてきた。
- 頼もしい話題は、共通通貨ユーロの発行である。二つの大戦の反省から、「今後ヨーロッパから戦争を起こさない」という理想を合意して 50 余年、長い努力を称賛したい。今後は個々の国の文化を維持しながら、政治の統合へと、どの様な型でと、いずれにしても強大な経済圏が成立するであろう。日本を含むアジアの今後は？

一方国内では

- 狂牛病の発生で、行政の不手際と企業の不正が発覚。更に食品表示の不信にまで発展。
- 十年に亘る長い不況、再生の足枷といわれる不良債権、この処理の不徹底が一層の経済不安を醸成している。と銀行界、行政への不信。
- 国会での「言った、言わぬ騒動」から、外務省に対する族議員の不当な介入。政・官・業の癒着による不当な金の流れ、外交政策の歪み、相手国への間違ったメッセージの発信。

● 凶悪犯罪の増加と検挙率の低下。中でも親による幼児の虐待死事件や生産年令層の自殺者数の急増には心が痛む。

等々、日本の国民はどうなったのだろう。

おてんと様に恥じないから、戦後の教育が、公を忘れた自由、民族の誇りを捨て去り、やさしく、結果の平等を謳歌してきた結果ではないのか。若き日の夢に向けた努力こそ「私が主役」を実現する。結果として社会にも役立つ。我々 70 才代、戦後のどん底から必死に頑張った。その間忙しさにかまけて、子供との対話に欠けた点は無かったか？自問する。

しかし、戦後与えられた民主主義も 50 年、そろそろ定着しだしている。それは、この不況下、米百俵を言い、あらゆる改革の実行を唱える小泉総理出現である。何か厳しさと爽やかさを感じて、私としては大いに期待している。

教育改革の一環として、総合学習、ゆとり教育がこの 4 月から始まるのが、若者の学力低下をもたらすのでは、と世の話題になっている。

そんな中、先日近くの小学校の卒業証書授与式に出席した。最近メディアに「学級崩壊」が飛び交う時代、先生と生徒の関係を観察したくて、好奇心からである。

約 1 時間、明るく楽しく、しかも極めて厳粛に進行した。驚きと感動を味わった。

大きな国旗と校旗が舞台正面に並べて掲げられてあり、国歌斉唱の後に卒業証書授与である。1 人づつ舞台上上がってこちらを向いて姓名を名のり、将来の私の夢を一つ言うのである。プロ

のスポーツ選手色々、学者、医者、小説家、看護婦、保母、中学へ行ったら部活を、英語を一所懸命等々。

更に卒業生の答辞が、1年入学から今までの思い出の数々、先生や父母に感謝、下級生へのお願い、それ等の言葉を一人一フレーズずつ語り、三つの区切りには明るい希望の歌を、三曲斉唱して入れる。

4、5年生の送る言葉は、歌劇の様に四つ位のグループが交互に合唱する。その間メロディーを約10名のリコーダーが流す。

卒業生各人も「私が主役」の気分を味わうと共に感動した事であろう。女性徒の多くは涙、涙であった。

式後の校長室での来賓茶話会で、中学校の女性校長も、実は壇上で茶髪の子が逆立ちや逆転などパフォーマンスをやるので、雰囲気をこわして困るのですが、幸いうちの学校は、ここの生徒さんが、殆どそっくり来て戴けるので問題が無く感謝しています。と言っていた。

また、先の休日、近くの公園で小学校の野球を見た。学校間の練習試合のようだった。試合が終

ると、それぞれミーティングに入る。

ネット裏附近のチームは、50才代の監督が、各人のプレーを振り返りながら野球理論とのつき合わせを、手振りを交えながら説明していた。向こうのチームの子供達が、ネット裏まで走って来て、一列に整列、誰も居ないグラウンドに向って、キャプテンの号令で「有難うございました」と声を揃え、脱帽しながら一礼。そして一斉に後ろに向きを変え、こちらのチームに向って「〇〇小学校の皆さん有難うございました」と、また声を揃えて同様に。そして父兄の待つ車列の方へ走って行った。ミーティング中の、こちらのチームの監督の「気をつけて帰ってね」との大声と手振りに送られながら。何となく目頭が熱くなった。成る程、この様な人達が町に居て、こういう中で、子供達が育って行く場面もあるんだなと感じた。

我等元気な70代。自分に出来ることは何でも活用して、近隣に接し、学校にも、子供達にも。

「夢に向けた努力が価値あること」「おてんと様に恥じない行動」を語って行きたいものだ。

**(元昭光化学工業(株)取締役/元イハラニッケイ化学工業(株)参与)**

### 小川正夫さん・・・“富士山頂に乗った笠雲”の撮影に成功。表紙写真にご提供

山頂の雲は山麓の暖かい湿った空気が山裾に沿って上昇気流となり、頂上の冷氣に会って出来るが、その瞬間の気温、湿度、風向、風力によって千変万化する。小川さんは富士山を撮り始めて10年、その間100回以上の富士撮影に挑戦して、今年2月夜明け、初めて典型的な“富士山頂に乗った笠雲”に遭遇、撮影に成功されました。ご本人は全くの幸運と感謝しきりです。この珍しい貴重な写真の1枚を本会報の表紙にご提供願いました。